



山形大学  
Yamagata University

2024年1月29日（月）

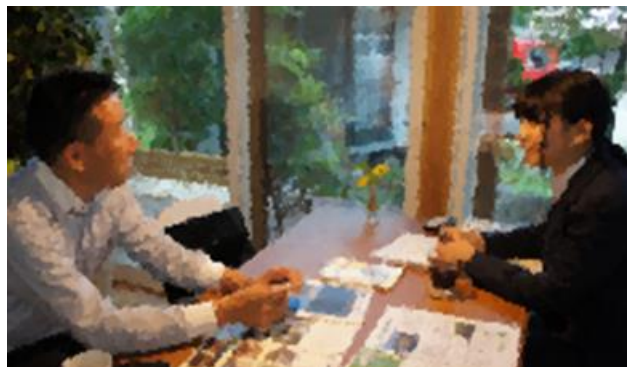
九州大学 基幹教育院

次世代型大学教育開発センター主催

（文部科学省教育関係共同利用拠点事業）

大学教職員職能開発FD

# 共育型インターンシップの 実践と現在地 ～Win-Winを目指して～



山形大学 学術研究院  
（学士課程基盤教育院）

教授 松坂 暢浩

共同研究者

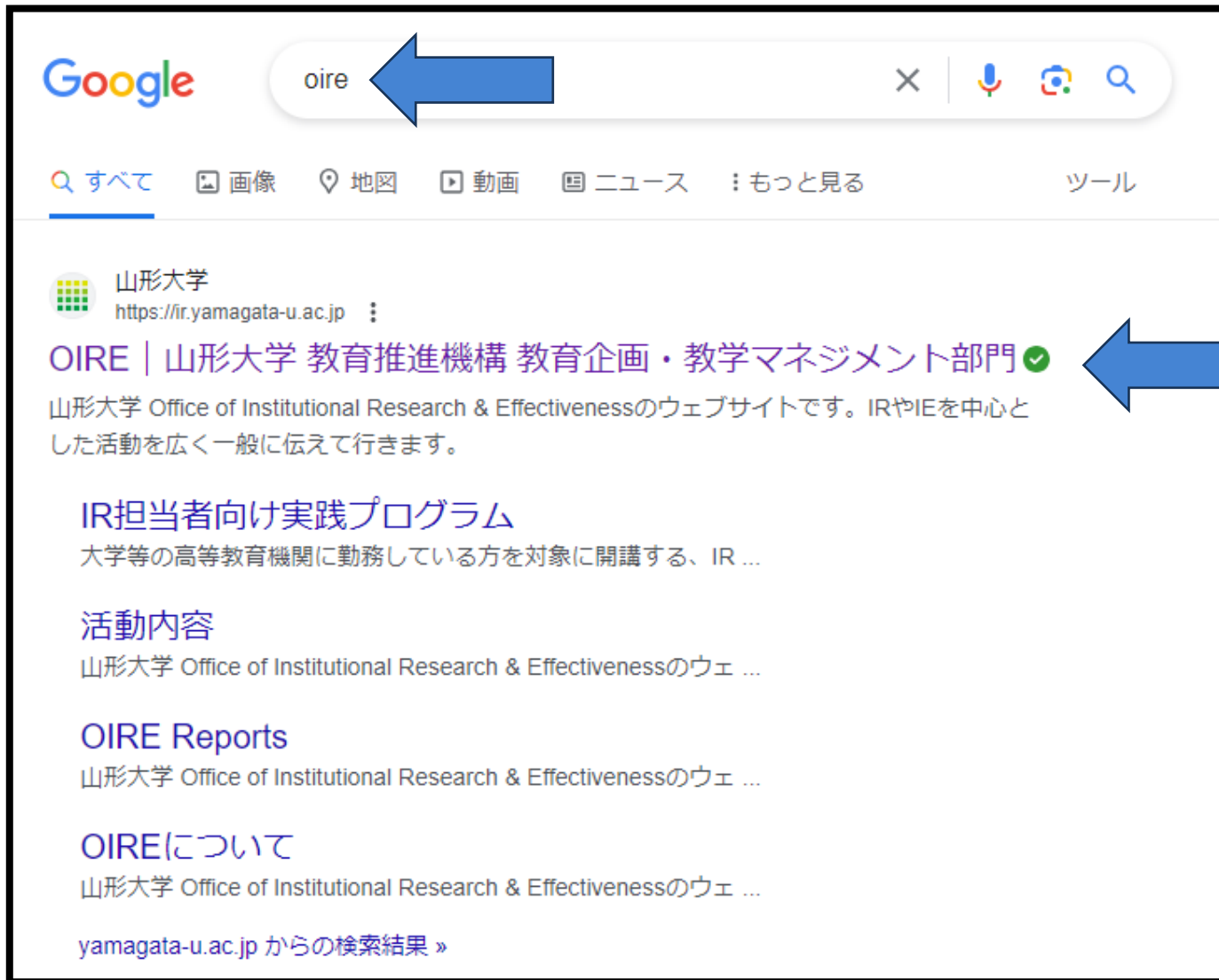
山形大学 准教授 山本 美奈子  
山形大学 教授 藤原 宏司

# スライドの配布について

山形大学では、SDGsの観点から、  
発表スライドをオンラインで公開  
しています



# スライドの場所 : oireで検索



The screenshot shows a Google search interface. The search bar contains the text "oire" with a blue arrow pointing to it from the right. Below the search bar, there are navigation tabs for "すべて", "画像", "地図", "動画", "ニュース", and "もっと見る". The search results are displayed below, with the top result being "山形大学" (Yamagata University) with the URL "https://ir.yamagata-u.ac.jp". The main title of the result is "OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門" with a green checkmark icon to its right, and a blue arrow pointing to it from the right. Below the title, there is a brief description: "山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。". There are four sub-sections listed below: "IR担当者向け実践プログラム", "活動内容", "OIRE Reports", and "OIREについて", each with a brief description. At the bottom, there is a link "yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »".

Google

oire

すべて 画像 地図 動画 ニュース もっと見る ツール

山形大学  
https://ir.yamagata-u.ac.jp

**OIRE | 山形大学 教育推進機構 教育企画・教学マネジメント部門** ✓

山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェブサイトです。IRやIEを中心とした活動を広く一般に伝えて行きます。

**IR担当者向け実践プログラム**  
大学等の高等教育機関に勤務している方を対象に開講する、IR ...

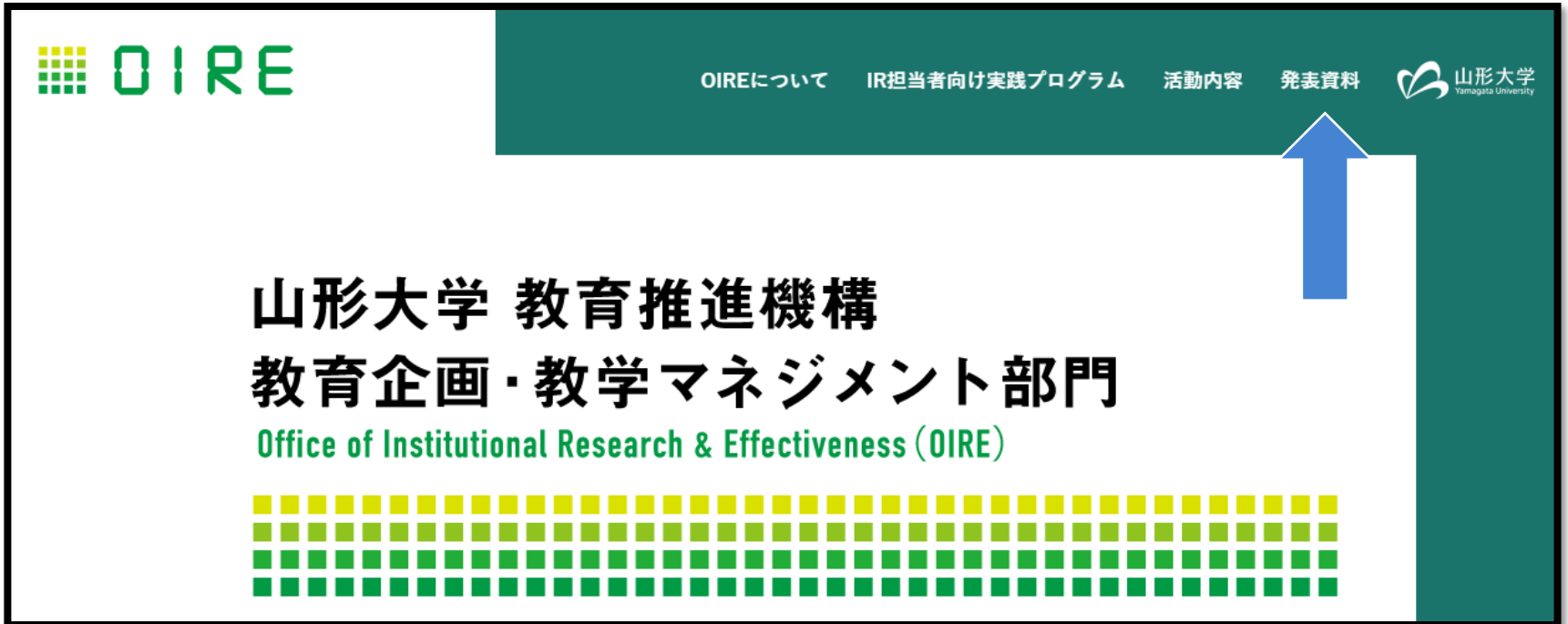
**活動内容**  
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

**OIRE Reports**  
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

**OIREについて**  
山形大学 Office of Institutional Research & Effectivenessのウェ ...

yamagata-u.ac.jp からの検索結果 »

# 「発表資料」をクリック



OIREについて IR担当者向け実践プログラム 活動内容 **発表資料** 山形大学 Yamagata University

**山形大学 教育推進機構**  
**教育企画・教学マネジメント部門**  
Office of Institutional Research & Effectiveness (OIRE)

# 「招待」をクリック



OIREについて

IR担当者向け実践プログラム

活動内容

発表資料



## 発表資料

招待 ▾

学会 ▾

# 今日の内容

- 大学・企業から寄せられる「よくある質問」への回答
  - 山形大学と山形県中小企業家同友会の事例を基に説明します。

自己紹介：松坂 暢浩 | Nobuhiro Matsuzaka

専門は、インターンシップを含む**キャリア教育**および**人材育成**。博士（学術）。等で、民間企業2社（大京グループ、リクルート）を経て、独立。2011年より現職。**全学対象のインターンシップを含むキャリア教育および就職支援の企画・運営を担当。**

主なインターンシップに関する受賞歴として、文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰（文部科学大臣表彰）」最優秀賞受賞、日本インターンシップ学会「榎本記念賞（秀逸なるインターンシップ）」受賞。著書としては、『**最新インターンシップ：ニューノーマル時代のキャリア形成**』（共著、学文社、2023）など。



# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## 文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」で「最優秀賞（文部科学大臣表彰）」受賞

### <取組概要>

- ✓ 早期からの就業体験を通して、キャリア意識を高め、働くとは何かを考えることを目的に実施。
- ✓ 地域の中小企業の理解及び次年度以降のインターンシップ参加促進を目指し、山形県内の中小企業でインターンシップ（事前訪問1日・現場実習3日・振り返り1日）を行う。

### 評価のポイント

低学年

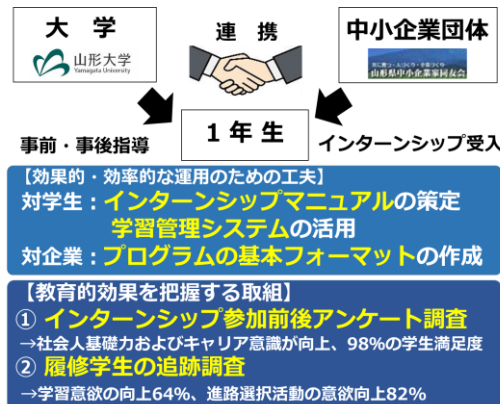
地域連携

モニタリング

- 地域でのインターンシップの推進に向け、学生・企業が参加・受入れしやすくすることを目指し、積極的な意味での短期間のプログラムとするなど、**インターンシップ実施に係る負担感を軽減し、普及していくための工夫がなされている**。さらに、**県内中小企業における産学協働教育に対する意識改革にもつながっている点は高く評価できる**。加えて、受講者数の一層の増加や、次年度以降のインターンシップの本格実施に向けた展望をより明確にすることが期待される。
- ターゲットを地場中小企業に絞り、「**インターンシップ・プログラム**」の基本フォーマットを山形県中小企業家同友会と協働して作成するなど、効果的な取組となるよう工夫を行っている。
- **受講者の追跡調査を実施し**、キャリア意識や学修意欲、将来の職業選択等のプロセスと決定に関わる要因の把握にも努めているとともに、教職協働による学生向けの「インターンシップマニュアル」の策定や、学習管理システムの活用により、**効果的・効率的なインターンシップの運用がなされている**。

(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ 43人
- ✓ 受入企業等数/ 25社  
(山形県中小企業家同友会加盟企業)
- ✓ 実施年次/ 1年次【選択必修】



出所) 山形大学ホームページ「本学の特徴的なインターンシップ」

URL : <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/employment/intern/original/>

文部科学省(2018)「受賞大学等取組概要」

URL : [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/other/\\_icsFiles/afiedfile/2018/12/19/1411892\\_02\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afiedfile/2018/12/19/1411892_02_1.pdf)

大学・企業から寄せられる

「よくある質問」への回答





# 寄せられる「よくある質問」リスト

---

- ① 「共育型インターンシップ」とは？
- ② 「共育型インターンシップ」の流れ（スケジュール）は？
- ③ 参加学生に対する指導内容は？
- ④ 参加学生の教育効果は？
- ⑤ 受入企業のメリットは？

➤ ③～④について山形大学と山形県中小企業家同友会の事例を基に説明

# 寄せられる「よくある質問」リスト

---

- ① 「共育型インターンシップ」とは？
- ② 「共育型インターンシップ」の流れ（スケジュール）は？
- ③ 参加学生に対する指導内容は？
- ④ 参加学生の教育効果は？
- ⑤ 受入企業のメリットは？

➤ ③～④について山形大学と山形県中小企業家同友会の事例を基に説明

# 学生のキャリア形成支援活動の4 類型

類型	取組みの性質	主な特徴
<b>タイプ1：</b> オープン・カンパニー ※オープン・キャンパスの企業・業界・仕事版	個社・業界の情報提供・PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主に、企業・就職情報会社や大学キャリアセンターが主催するイベント・説明会を想定</li> <li>● 学生の参加期間（所要日数）は「超短期（単日）」。就業体験は「なし」</li> <li>● 実施時期は、時間帯やオンラインの活用など学業両立に配慮し、「学士・修士・博士課程の全期間（年次不問）」</li> <li>● 取得した学生情報の採用活動への活用は「不可」</li> </ul>
<b>タイプ2：</b> キャリア教育	教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主に、企業がCSRとして実施するプログラムや、大学が主導する授業・産学協働プログラム（正課・正課外を問わない）を想定</li> <li>● 実施時期は、「学士・修士・博士課程の全期間（年次不問）」。但し、企業主催の場合は、時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮</li> <li>● 就業体験は「任意」</li> <li>● 取得した学生情報の採用活動への活用は「不可」</li> </ul>
<b>タイプ3：</b> 汎用的能力・専門活用型 インターンシップ	◆ 就業体験 ◆ 自らの能力の見極め ◆ 評価材料の取得	● 主に、企業単独、大学が企業あるいは地域コンソーシアムと連携して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視したプログラムを想定 ● 学生の参加期間（所要日数）について、汎用的能力活用型は短期（5日間以上）、専門活用型は長期（2週間以上）★ ● 就業体験は「必ず行う（必須）」。学生の参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験★ ● 実施場所は、「職場（職場以外との組み合わせも可）」（テレワークが常態化している場合、テレワークを含む）★ ● 実施時期は、「学部3年・4年ないしは修士1年・2年の長期休暇期間（夏休み、冬休み、入試休み・春休み）」「大学正課および博士課程は、上記に限定されない」★ ● 無給が基本。但し、実態として社員と同じ業務・働き方となる場合は、労働関係法令の適用を受け、有給 ● 就業体験を行うにあたり、「職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後にフィードバック」★ ● 募集要項等において、必要な情報開示を行う★ ● 取得した学生情報の採用活動への活用は、「採用活動開始以降に限り、可」 ● ★の基準を満たすインターンシップは、実施主体（企業または大学）が基準に準拠している旨宣言したうえで、募集要項に産学協議会基準準拠マークを記載可
<b>タイプ4（試行）：</b> 高度専門型 インターンシップ ※試行結果を踏まえ、今後判断	◆ 就業体験 ◆ 実践力の向上 ◆ 評価材料の取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当する「ジョブ型研究インターンシップ（文科省・経団連が共同で試行中）」「高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ（2022年度にさらに検討）」は、大学と企業が連携して実施するプログラム</li> <li>● 就業体験は「必ず行う（必須）」</li> <li>● 取得した学生情報の採用活動への活用は、「採用活動開始以降に限り、可」</li> </ul>

一定の基準  
(★の5つ)

インターンシップに該当する活動

出所) 採用と大学教育の未来に関する産学協議会 2021年度報告書 「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」

[https://www.sangakukyogikai.org/\\_files/ugd/4b2861\\_80df016ea6fe4bc189a808a51bf444ed.pdf](https://www.sangakukyogikai.org/_files/ugd/4b2861_80df016ea6fe4bc189a808a51bf444ed.pdf)

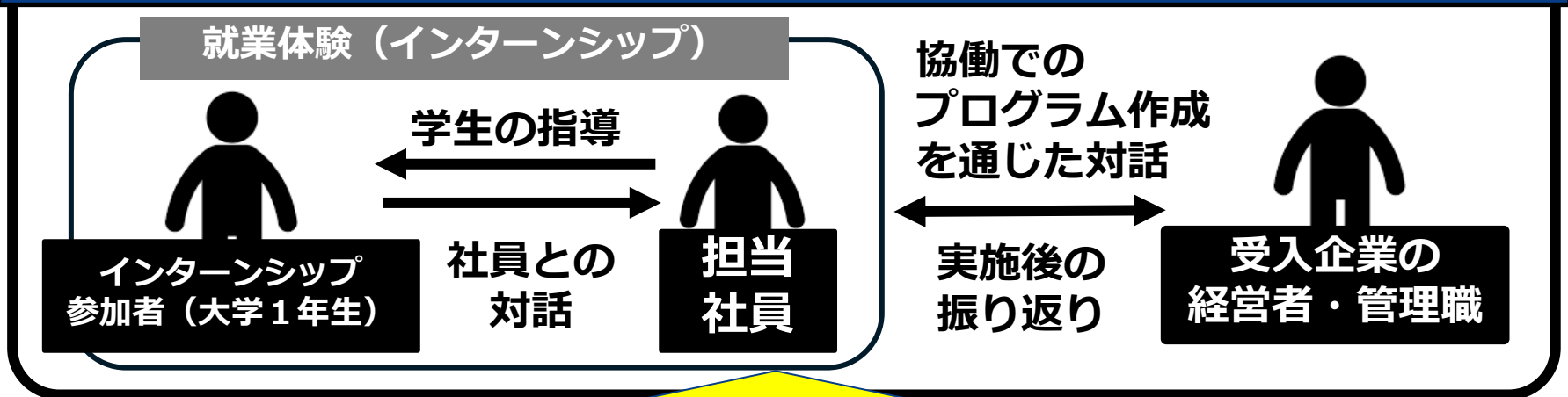
文部科学省・厚生労働省・経済産業省 (2023) 「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たったの基本的考え方」

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/PDF/20220613002set.pdf>

# 「共育型インターンシップ」について

## 共育型インターンシップ

インターンシップ参加学生と受入先の中小企業の社員が  
「共に学び、共に育ち合う」共育型のプログラム



参加学生の指導、受入企業のサポートなど



学校

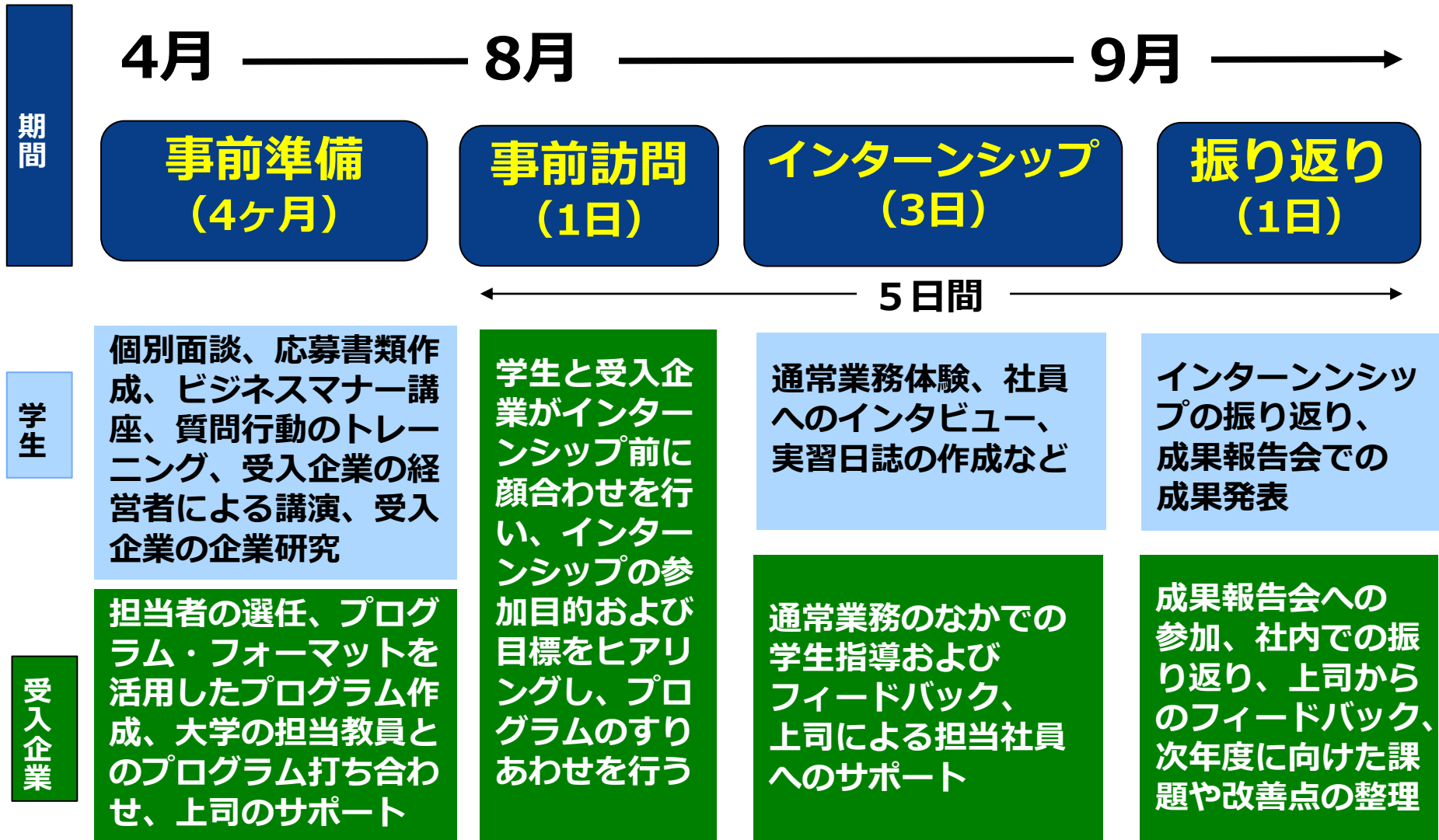


中小企業団体



★学生に対する教育効果を高め、受入企業でインターンシップを担当する社員の人材育成につなげるために、独自に開発したプログラム作成用のフォーマットを受入企業に提供

# 「共育型インターンシップ」のスケジュール（流れ）



# 寄せられる「よくある質問」リスト

---

- ① 「共育型インターンシップ」とは？
- ② 「共育型インターンシップ」の流れ（スケジュール）は？
- ③ 参加学生に対する指導内容は？**
- ④ 参加学生の教育効果は？**
- ⑤ 受入企業のメリットは？

➤ ③～④について山形大学と山形県中小企業家同友会の事例を基に説明

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

---

## 【授業の特徴】

1. **全学部1年生**（医学部や留学生を含む）が対象
2. **基盤共通教育の選択必修科目**
3. **県内中小企業団体と連携し受入先を中小企業に限定**

## 【授業の到達目標】

インターンシップ体験を踏まえ、以下3点が説明できる

1. **自分自身にとって働くとは何か**【知識・理解】
2. **地域の中小企業等の魅力とは何か**【知識・理解】
3. **インターンシップ体験での学びを踏まえて今後の大学生活をどのように過ごしていくか**【知識・理解】

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

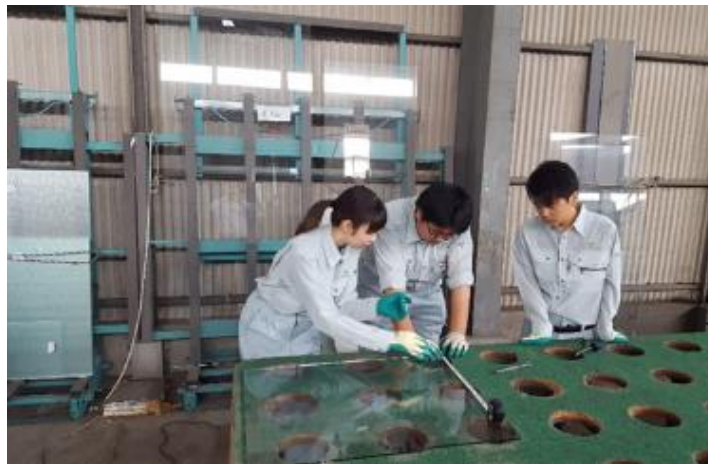
## 履修学生数と受入企業数の推移

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度	2022年度	2022年度
受入企業数		13	18	19	25	31	37	31	26	26
履修学生数		20	28	34	43	42	60	41	44	26
所属	人文社会科学部	9	5	9	2	11	5	15	14	6
	理学部	2	3	3	2	0	0	0	8	5
	医学部	0	0	0	5	0	0	1	0	0
	工学部	2	5	5	23	31	36	14	18	12
	農学部	4	11	1	11	6	19	4	2	2
	地域教育文化学部	3	4	16	0	0	5	7	2	1
性別	男性	9	18	11	27	32	32	18	28	15
	女性	11	10	23	16	16	33	23	16	11
文理	文系	12	9	25	2	11	10	22	16	7
	理系	8	19	9	41	37	55	19	28	19
出身	山形県出身者	6	5	12	14	10	15	7	5	6
	山形県外出身者	14	23	22	29	38	50	34	39	20



# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## インターンシップ風景（写真）



# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## 授業のスケジュールと概要

NO	日程	テーマ	関連する教科書のページ	教科書のワークシート	内容	学習目標	学習活動（個人ワーク等）	項目
1	4月14日	オリエンテーション	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の目的と内容について</li> <li>・昨年の授業アンケートの結果の紹介について</li> <li>・本授業の進め方と成績評価について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の目的、内容、進め方が理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業を履修理由と期待すること</li> </ul>	事前学習
2	4月21日、28日、5月2日、12日、19日※一部個人学習の時間あり	インターンシップ参加の準備①	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの内容を復習</li> <li>・インターンシップ参加の意義について</li> <li>・インターンシップに参加した先輩の学びの紹介</li> <li>・応募書類（履歴書など）の作成方法</li> <li>・個別面談の実施</li> <li>・履歴書の提出（添削前）</li> <li>・履歴書に対する改善点のフィードバックを受け再提出する</li> <li>・履歴書の提出（添削後）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募書類（履歴書など）の作成を通して、自分自身についてやインターンシップ参加の目的・目標を自分の言葉で説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己PR、インターンシップ参加目的および目標の作成</li> <li>・履歴書の作成</li> <li>・個別面談(5/26,6/2)</li> <li>・先輩の体験談からの学ぶ</li> </ul>	
		インターンシップ参加の準備② (履歴書の作成)	P87 (自己分析) P89~90 (履歴書)	P132 (目標設定) P134 (自己分析) P136 (自己PR・志望理由)				
3	6月2日	ビジネスマナー講座①	P93~102、P109~117 (ビジネスマナー)	P91-128 (ビジネスマナー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ参加にあたり、最低限必要なビジネスマナーについて（身だしなみ、挨拶とお辞儀、言葉遣い、電話・メール、受入先の訪問、守秘義務など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマナーの基本を学び、理解できた点と今後の課題を自分の言葉で説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書および授業テキストを読んだ事前学習</li> <li>・電話かけのロールプレイング</li> <li>・ケーススタディ（原田他，2014）をもとに、守秘義務について考える</li> </ul>	
4	6月9日	ビジネスマナー講座②	P93~102、P109~117 (ビジネスマナー)	P91-128 (ビジネスマナー)				
5	6月16日	ビジネスマナー講座③	P93~102、09~117 (ビジネスマナー)	P91-128 (ビジネスマナー)				
6	6月23日	働くことについて	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことを考える必要性について</li> <li>・なぜ働くのかを考える</li> <li>・働く上で大切にしたいこと（内的キャリア）を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くとは何かについて、様々な理論や考え方に触れ、自分自身にとっての働く意味を説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石切職人（石切工）の寓話をもとに、働くとは何かを考える</li> </ul>	
7	6月30日	中小企業について	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業のイメージについて</li> <li>・中小企業とは何かについて</li> <li>・中小企業で働く魅力について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業について理解できたことを自分の言葉で説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業のイメージについて考える</li> <li>・山形県中小企業家同友会の会社説明動画の視聴</li> </ul>	
8	7月7日	山形の中小企業で働く魅力について（外部講師の講演）	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県中小企業家同友会の経営者による講演（講演（35分）、ペアワーク（10分）、質疑応答（25分））</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師の講演を聞き、そこでの学びを自分の言葉で説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師の講演を聞く</li> </ul>	
9	7月14日	インターンシップ先の企業研究	P89 (業界・職種・企業研究)	P135 (企業研究)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ先の企業研究</li> <li>・JOBWAY山形、受入企業HPの確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入先の事業内容や職種等について自分の言葉で説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入企業の理解を深めるペアワーク（受入企業について説明し、質問を受けるワーク）</li> </ul>	
10	7月21日、28日	インターンシップ参加にあたっての最終確認	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ参加前の事前訪問の準備（事前訪問の日程調整、注意点など）について</li> <li>・インターンシップ参加の注意点について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有意義な学びの機会とするために、事前訪問およびインターンシップ参加の注意点や心構えを確認し、理解できたことを自分の言葉で説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加にあつたての不安の整理と対応策の検討</li> </ul>	
11	8月予定	事前訪問	※独自に作成したインターンシップマニュアル活用	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前訪問の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前訪問を通して、参加するインターンシップの内容について理解し、また参加目的・目標を改めて整理した上で、自分の言葉で説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アポイントを取り、会社までの経路を調べて事前訪問を行う（直接の訪問が難しい場合はオンライン（Zoomなど）も検討）</li> <li>・事前訪問は、8/21~8/29</li> </ul>	
12	9月1日~13日の期間で3日間	インターンシップ	※独自に作成したインターンシップマニュアル活用	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ参加（3日間）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ参加を通して、得られた学びや気づきをを実習日誌にまとめることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場での職業体験</li> </ul>	IS
13	9月15日	成果報告会	※独自に作成したインターンシップマニュアル活用	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果報告会の準備</li> <li>・成果報告会</li> <li>・全体の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ参加を通して得られた学びや気づきを踏まえて、到達目標で示した「地域の中小企業の魅力」、「自分自身にとって働くことはどのようなことか」、「今後の大学生活をどのように過ごしていくか」について、成果報告会で発表できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果報告会での成果発表</li> </ul>	事後学習

## 学生の教育効果を高める取組（工夫）

### 1) 事前準備

- 本インターンシップを体系的な「キャリア教育」の1つとして位置づけ「キャリアデザイン科目」の授業を併せて履修
- 学生の個別面談による参加目的の明確化や不安軽減
- 授業は、ID（Instructional Design）観点から設計・運営。
- 履修学生をピアメンター（先輩学生）がサポート
- 学生から不安の多いビジネスマナーと質問行動の学習を強化
- 独自の「インターンシップマニュアル」の作成と活用

### 2) 事前訪問

- 学生が受入先に訪問し、学生自身の参加目的と目標を受入企業に共有し、プログラムのすり合わせを行う

### 3) 振り返り

- 本授業の目的と目標に合わせた形で学生の成果発表内容を統一化
- 受入先を交えた振り返りによる学びの定着化

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## I D※の観点からの授業運営（ケラーのARCSモデルを活用）

### ➤ 第5回授業例：ビジネスマナー講座（事前訪問の準備）

項目	定義	授業での指導内容	時間
<b>注意</b> (Attention)	学習者の関心を獲得する 学ぶ好奇心を刺激する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習で取り組んだ中小企業の理解を踏まえて、学びの共有を行う。</li> <li>グループワークに入る前に、活動方法のヒントを説明する。</li> <li>コミュニケーションスキルの聴く姿勢や伝えるコツを伝える。</li> </ul>	5分
<b>関連性</b> (Relevance)	学習者の肯定的な態度 に作用する個人的ニース やゴールを満たす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日の目標（ゴール）を示す。</li> <li>具体的な学習内容と進め方など説明する。</li> <li>教員から前回のビジネスマナー講座に関するフィードバックと本日の学習内容とどのよ のに関連しているか説明する。</li> <li>グループで学習したビジネスマナーで本日意識したい点（目標）を共有させる。</li> </ul>	15分
<b>自信</b> (Confidence)	学習者が成功できること、 また、成功は自分たちの 工夫次第であることを確 信・実感するための助けを する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>上手くできなくても、改善点を意識することで得られるメリットを再度伝える。</li> <li>学生役と受入企業役に分かれて、事前訪問での面談練習をペアで行う。</li> <li>説明することで聞いている人に伝わる内容か、よりよい内容、わかりやすい内容にする にはどうしたらよいかという点を意識させる。</li> <li>①学生役は、作成した履歴書に基づいて、自己紹介、参加理由を伝える。</li> <li>②受入企業役は、質問をする。</li> <li>教員とピアメンターで、教室を巡回し、必要に応じて学生にフィードバックを行う。</li> </ul>	40分
<b>満足感</b> (Satisfaction)	(内的と外的) 報酬に よって達成を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークになり、自身の目標が達成できたかの振り返りとペアワークに取り組ん でみでの学びや気づきを共有する。</li> <li>教員からのフィードバック、ピアメンターから自身の体験を踏まえたコメントしてもらう。</li> <li>本日の活動を通して得た報告と次週までの課題について、学内の学習サイトから教 員に提出するように指示する。</li> </ul>	20分

※ID (Instructional Design) とは、「教育活動の効果・効率・魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して教材を作成したり、授業・研修を実践するプロセス」（鈴木,2006）のこと。

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## 授業内でのビジネスマナー講座と質問行動の学習風景



- ビジネスマナー講座では、基本的なビジネスマナー（挨拶や言葉遣いなど）を学習し、ペアワークにて事前訪問のアポ取り（電話）、事前訪問での面談練習を複数回実施。練習では、ピアメンター（インターンシップに参加経験のある先輩学生）が、履修学生をサポート。
- 併せて講座内で、インターンシップ先での質問行動についてペアワークにて練習。  
※質問行動：学習者が様々な場面で分からないことを質問する行動（山本・松坂,2021）

出所) 古閑博美・牛山佳菜代（編著）『最新インターンシップ ニューノーマル時代のキャリア形成』学文社  
山本美奈子・松坂暢浩（2021）「低学年インターンシップにおける キャリア意識の変化 一事前学習の質問行動に焦点をあてて」,  
『キャリアデザイン研究（日本キャリアデザイン学会）』, 18, pp63-72

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## インターンシップマニュアル（一部抜粋）

【目 次】

**I. 事前訪問の際にインターンシップ受入先に提出する書類の確認**

**II. 電話による事前訪問のアポイントについて**

1. 電話のマナーについて
2. 事前訪問のアポイントの取り方について
3. 事前訪問日確定後の教員への報告

**III. 事前訪問について**

**IV. (参加前) 事前アンケートの入力と提出**

**V. 新型コロナウイルスおよびインフルエンザなどの感染対策について**

**VI. インターンシップ中について**

1. 服装などについて
2. 通勤について
3. 身だしなみや振る舞いについて
4. インターンシップ中の緊急連絡先について
5. インターンシップ参加前のチェック項目
6. インターンシップ中の注意点
7. インターンシップ終了後の報告

**VII. インターンシップ参加にあたって意識してほしい点**

1. 自分が専攻に立った目標を意識する
2. 参加した先輩の事例を参考に意識して臨む
3. ワンポイントアドバイス
4. 積極的に質問する

**VIII. 成果報告会について**

**IX. (参加後) 事後アンケートの入力と提出**

**I. 事前訪問の際にインターンシップ受入先に提出する書類の確認**

<インターンシップ受入先に持参する書類一覧> ※確認したらチェックしましょう。  
 1. 履歴書  2. 誓約書

**II. 電話による事前訪問のアポイントについて**

基本的には全員事前訪問に行っていく予定です。  
 まずは電話をかけて、インターンシップ参加前に行う事前訪問の日曜を確定してもらいます。  
 始めに自分自身の希望する日時（候補日）を第3希望まで記入してください。

<事前訪問希望日時>  
 第1希望 月 日 ( ) 時～  
 第2希望 月 日 ( ) 時～  
 第3希望 月 日 ( ) 時～

訪問時間は1時間程度を想定してください。

(注意事項) 夏休みの予定もあるかと思いますが、受入企業の都合もありますので「この日程でない」と一方的に伝えることのないようにしてください。ここでうまく調整することも社会勉強の一つです。そのため、しっかりと日程調整できるように候補日を第3希望まで準備しておきましょう。

次に、インターンシップ受入先の情報（連絡先）を記入してください。

<インターンシップ受入先の情報（連絡先）>  
 会社名：  
 担当者名前：  
 連絡先（電話番号）：

1. 電話のマナーについて

電話は、声だけのやりとりになり、相手の状況が見えません。相手の状況（基本的に忙しいという前提）を考えながら、しっかり対応しましょう。携帯電話やスマートフォンから連絡することになると、周りが静かな場所（自宅や学内でも比較的に静かな場所）を選び、以下の流れで電話をかけましょう。また電話をかける前に事前に伝えるべき要点をメモに書き出し、見ながらゆっくり話すと安心です。

5. インターンシップ参加前のチェック項目

インターンシップ期間（3日間）は、参加前に毎日下記の項目をチェックしてください。

No	チェック項目	ポイント
1	体調のチェック	体調の良い悪いに関わらず、①体温測定、②顔面・のどの痛みなど、③いつもと違う症状（目の充血、肌の痛みなど）の有無を把握
2	公共交通機関のチェック	運行状況を確認（原付やバイク、自働車運転は不可）
3	天候などのチェック	天候、地震、災害などニュースにてチェック

6. インターンシップ中の注意点

①遅刻をしないように早めに行動しましょう。遅刻しそうな場合（到着がギリギリになりそうな場合）は、前もって受入企業のインターンシップ担当者**に必ず電話連絡をしてください。**  
 ※体調不良によって休む場合も、遅刻と同様に必ず教員にも連絡をしてください。  
 <電話連絡の例>  
 「おはようございます。インターンシップ生の〇〇です。本日、〇〇のため出勤時間に遅れそうです。本日に申し訳ありません。〇〇時には到着できるかと懸念します。どうぞよろしくお願ひいたします。」

※電話連絡の際は、謝罪、遅刻の理由、到着予定時間を伝えてください。その上で、担当者の指示を仰ぐてください。インターンシップ先への連絡終了後は、教員にも連絡をください。

②インターンシップ中は、体調不良などで医療機関を受診する場合があります。念のために、保険証のコピーを持参してください。

③インターンシップ中に知り得た「秘密事項」は、外部に漏らさないように「守秘義務」を守ってください。大きなトラブルになる危険性があります。

④インターンシップ期間は、毎日、Google スプレッドシートの日誌を付けてください。

⑤成果報告の資料にインターンシップ風景の「写真」を入れてもらう予定です。そのため、インターンシップ中に携帯やスマートフォンで作業風景や集合写真撮影してきてください。ただし、無断で撮影はしないでください。必ずインターンシップ先の担当者に相談した上で、撮影許可をもらってください。

⑥インターンシップ中に発生した場合の対処行動

アクシデント	員体例	対応行動
勤務開始時間に出席できない	・朝起きたら体調が悪い	→受入先へ連絡し、事情を説明、担当教員へ連絡・報告し、受診する
	・寝過ごした	→受入先へ連絡し、到着時刻を伝える
・その他、緊急事態が起きた	→勤務をどうするか、担当教員に相談する	

➤ 学生が、インターンシップ参加までの具体的な流れや準備、教員への報告事項などについて、チェックリストで進捗を確認しながら使用できるように工夫。

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## 成果発表用のフォーマットを統一（一部抜粋）

2. インターンシップ内容（3日間） ※2名以上でインターンシップに参加した場合で、プログラムが同じ場合は、各自で作成せずに1枚で概要を記入してください。

	午前	午後
1日目	※インターンシップ参加先での具体的な内容を簡条書きで入力してください。 Ex)朝礼、営業同行（〇〇社）、社内業務（〇〇と〇〇の業務）	
2日目	※次ページにインターンシップ先で撮影した写真を貼ってください。最大4枚までとします。	
3日目		

山形大学 3

3. 個人の目標と達成状況 ※2名以上でインターンシップに参加した場合は、各自で作成してください。また、進捗の発表がわかるように、必ずここに「名前」を記入してください。

参加前の目標

※志望理由書等を見て簡条書きで入力してください。

目標達成度（5段階）

達成できた **5** 4・3・2・1 達成できなかった

理由 **当てはまるものに○をつけてください。**

※なぜ上記の点数を付けたか？その理由を簡条書きで入力してください。

山形大学 32

6. 「働く」とは何か？ ※2名以上でインターンシップに参加した場合は、各自で作成してください。また、進捗の発表がわかるように、必ずここに「名前」を記入してください。

私にとっての「働く」とは

※「私にとって「働く」とは、〇〇であることです。」など簡条書きで記入してください。

理由

※なぜそのような言葉にしたのか？  
今回のインターンシップの体験を踏まえて、その理由を具体的に分かりやすく記入してください。

山形大学 35

5. 中小企業の魅力とは何か？ ※2名以上でインターンシップに参加した場合は、各自で作成してください。また、進捗の発表がわかるように、必ずここに「名前」を記入してください。

私の感じた「山形の中小企業の魅力」について

※インターンシップを通して、感じた中小企業で働く魅力について、具体的に記入してください。（初めて聞く人に伝えるようにまとめてください）  
※インターンシップ先の魅力を踏まえて記載してください。（簡条書きでも可）

山形大学 34

授業の到達目標と関連付けて、発表用のフォーマットを統一

※作成準備にあたっては、担当教員およびピアメンターが関わり、学生の気づきや学びが深まるようにサポート。  
※パワーポイントのノートに、発表用の原稿は、必ず記入するように指導。

## 参加学生の教育効果に関する調査

- 1) 満足度**89.7%**
- 2) 参加後に中小企業に対するイメージがポジティブに変化割合**89.8%**
- 3) 参加者と不参加者を比較し、**キャリア意識（CAVT）の向上、社会人基礎力の伸長を確認**
- 4) **働く意味や中小企業の魅力、インターンシップでの学びを生かし、これからの大学生生活をどのように過ごすかの質的分析**



# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

各群における調査実施前後の心理尺度の平均値と標準偏差、分散分析の結果

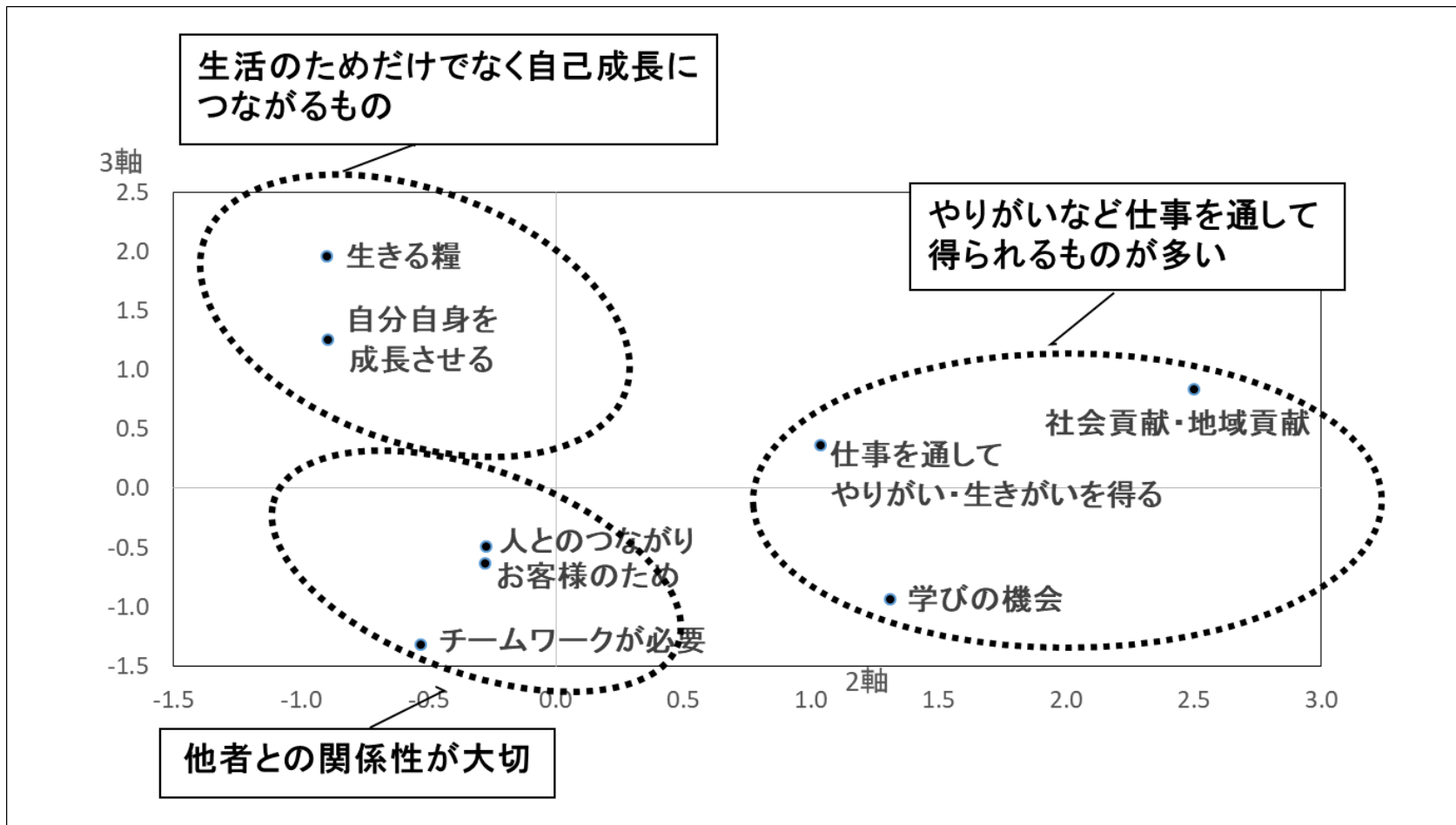
	各群	参加前（7月）	参加後（9月）	交互作用
<b>キャリア意識</b> CAVT 「ビジョン」 将来やりたいことなどを 明確にする準備	参加者 n=39	16.64±4.39	20.74±4.00	***
	不参加者 n=35	17.71±5.68	16.23±6.03	
<b>キャリア意識</b> CAVT 「アクション」 将来に向けた積極的な 行動	参加者 n=39	18.23±3.96	21.31±4.41	***
	不参加者 n=35	16.43±4.48	15.23±5.01	
<b>社会人基礎力</b> 「前に踏み出す力」 主体性・働きかける力・ 実行力	参加者 n=39	9.18±2.35	11.31±1.76	***
	不参加者 n=35	8.34±2.36	8.11±2.63	

\*\*\* $p < .001$

出所) 松坂暢浩・山本美奈子 (2019) 「中小企業インターンシップの教育的効果の検討－低学年次を対象としたプログラムに着目して－」,  
『キャリアデザイン研究』(日本キャリアデザイン学会), (15), ppt17-29.

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

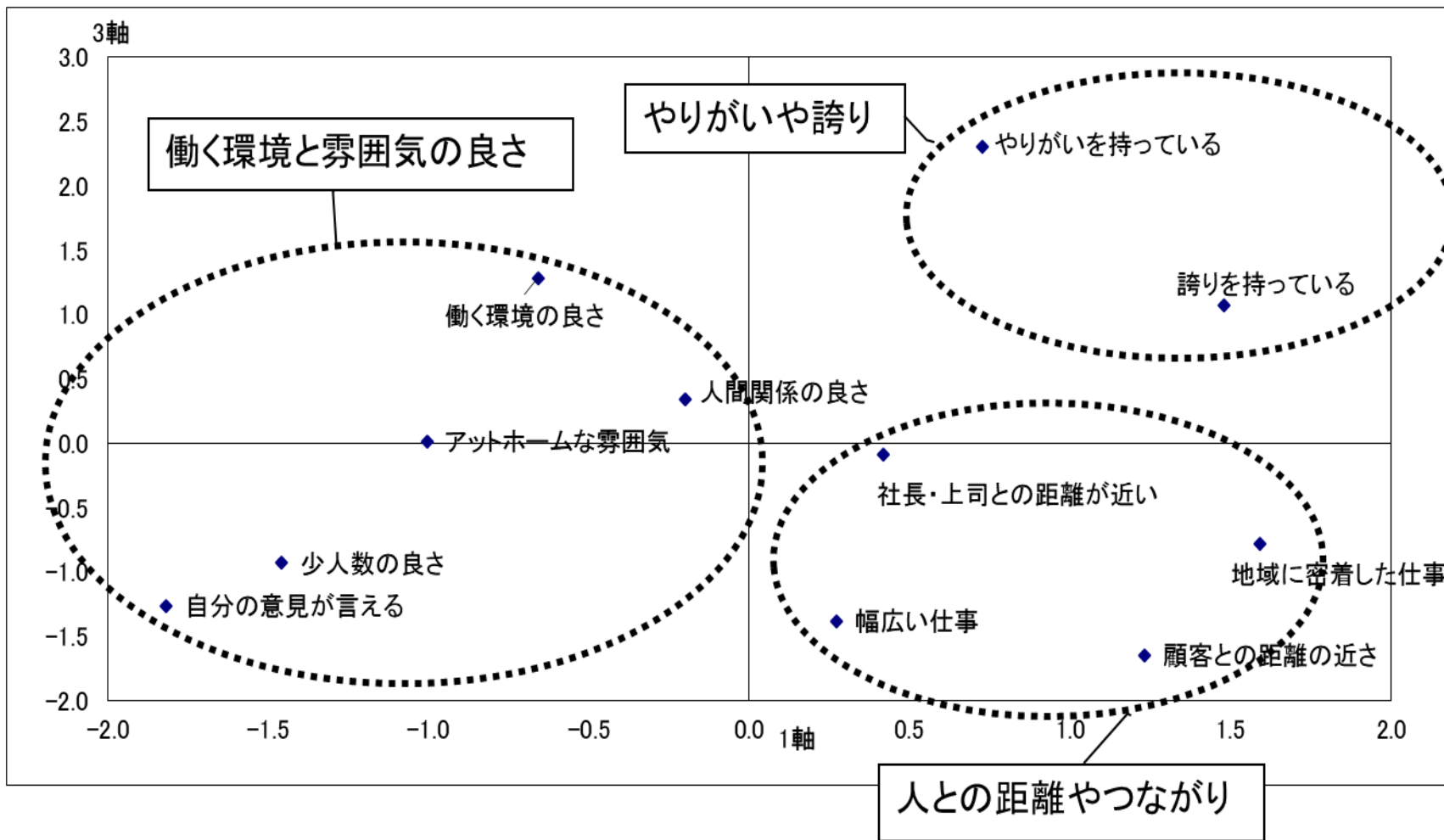
## 働く意味の分類（数量化Ⅲ類によるカテゴリースコアの布置）



出所) 松坂暢浩・山本美奈子 (2019) 「中小企業インターンシップの教育的効果の検討—低学年次を対象としたプログラムに着目して—」, 『キャリアデザイン研究』 (日本キャリアデザイン学会), (15), ppt17-29.

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

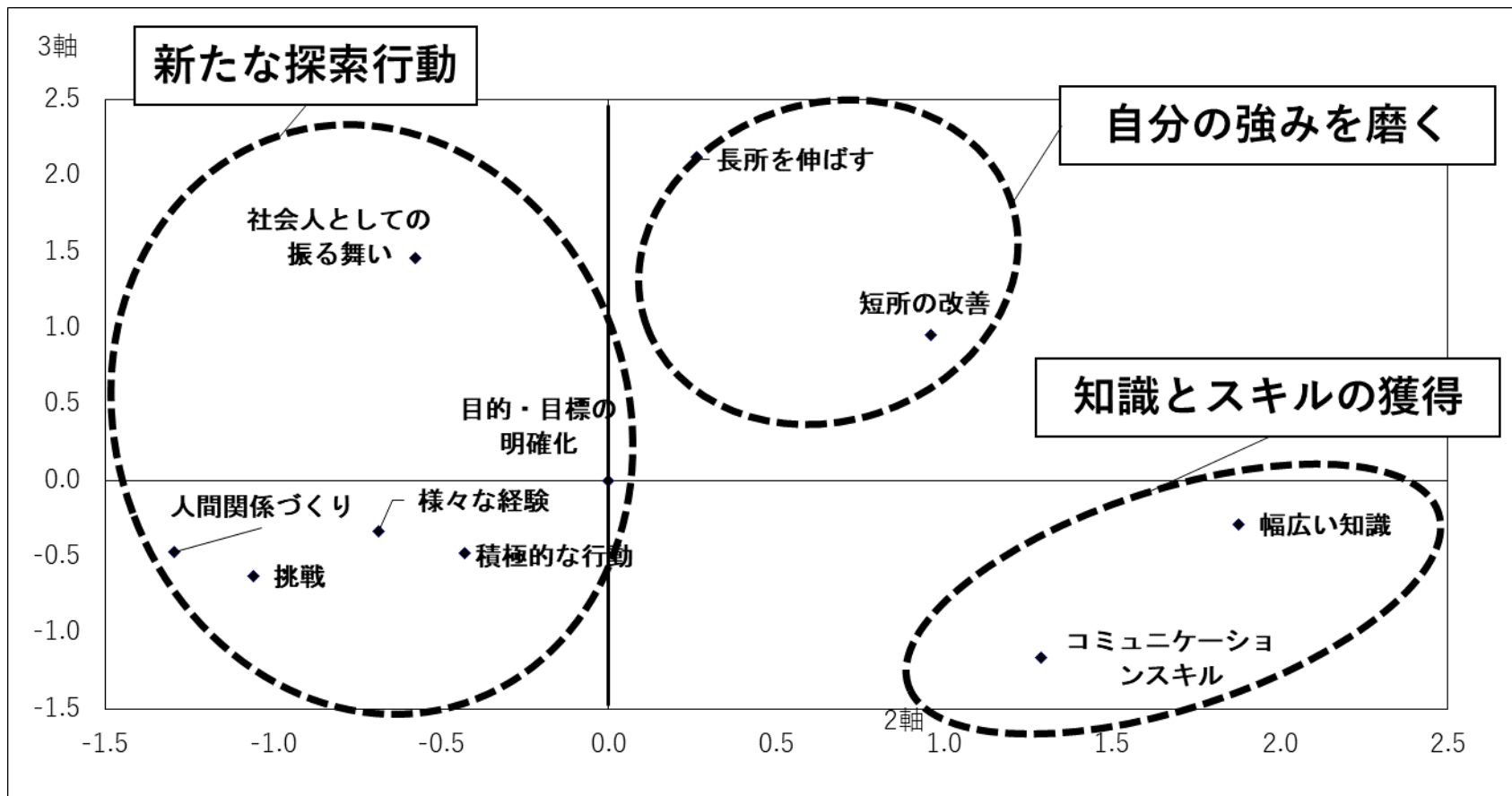
## 学生の中企業の魅力分類（数量化Ⅲ類によるカテゴリースコアの布置）



出所) 松坂暢浩・山本美奈子 (2019) 「中小企業インターンシップの教育的効果の検討－低学年次を対象としたプログラムに着目して－」,  
『キャリアデザイン研究』(日本キャリアデザイン学会), (15), ppt17-29.

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

インターンシップでの学びを生かし、これからの大学生活をどのように過ごすかの分類（数量化Ⅲ類によるカテゴリースコアの布置）

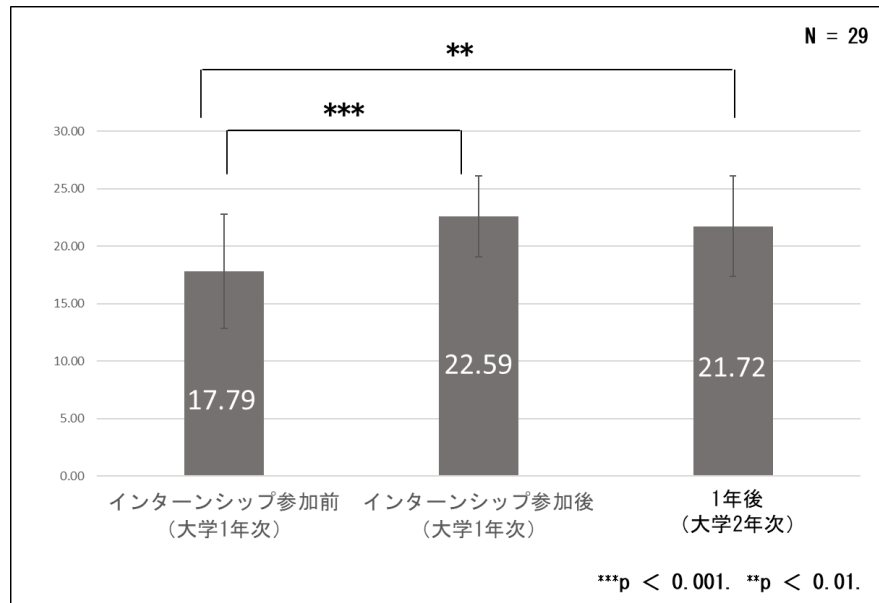


出所) 松坂暢浩・山本美奈子 (2019) 「低学年を対象としたインターンシップの教育的効果の検証 —これからの大学生活で生かすインターンシップでの学びに着目して—」, 『山形大学高等教育研究年報』 (山形大学高等教育研究企画センター紀要), (15), ppt11-18.

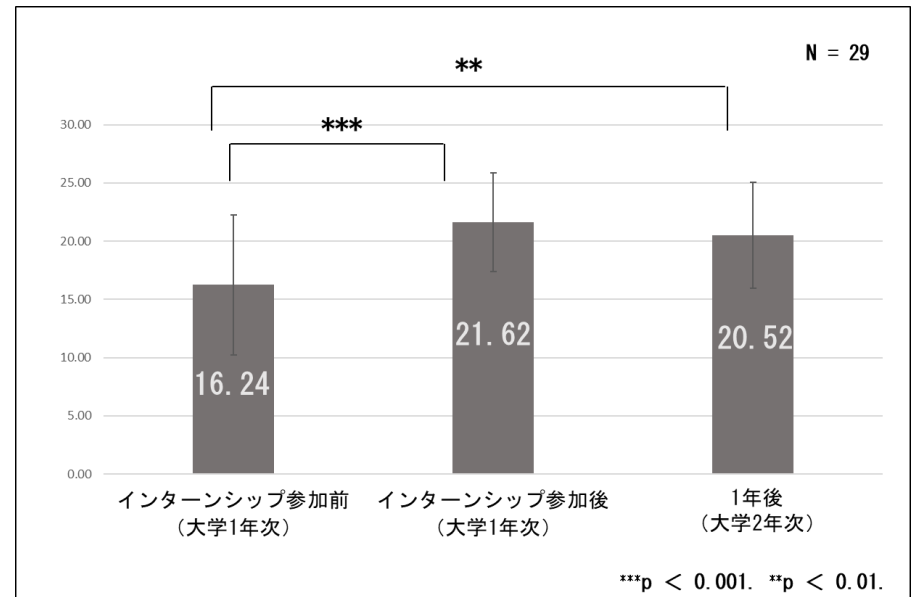
# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## 2021年参加学生の追跡調査（1要因の反復測定分散分析の結果）

### CAVT「アクション」



### CAVT「ビジョン」



**インターンシップ参加前に比べ、参加後は、0.01%水準で有意に向上し、1年後も0.1%水準で有意に向上していた**

# 寄せられる「よくある質問」リスト

---

- ① 「共育型インターンシップ」とは？
- ② 「共育型インターンシップ」の流れ（スケジュール）は？
- ③ 参加学生に対する指導内容は？
- ④ 参加学生の教育効果は？
- ⑤ **受入企業のメリットは？**

➤ ③～④について山形大学と山形県中小企業家同友会の事例を基に説明

# 受入企業における共育型インターンシップ受入のメリット

## 効果

➤ 継続的に取り組むことで、社員の成長や組織活性化につながる。

## 効率

➤ 産学連携による体系的な取り組み。

➤ プログラムフォーマットを活用することで、コストをかけずに、指導・育成のスキル向上やノウハウの蓄積につながる。

## 魅力

➤ 社員教育として活用することで、自社の魅力や採用のあり方を見直す機会となり、採用力向上につながる。

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## 山形県中小企業家同友会との連携

- 大学と**連携協力協定**を締結
- 担当教員が同友会の委員会に参加し**教育目的を共有**
- 同友会事務局が**受入企業の選定**
- 同友会事務局と担当教員が**受入企業を訪問**
- 受入企業の**マッチングはランダムに決定**

### 【プログラムの企画・設計の負担軽減に対する取組】

- **プログラムフォーマット**の開発と活用
  - **他社のプログラム事例共有**や**勉強会の実施**
- 受入企業が増加（2014年度**13**社→2019年度**37**社）





# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## プログラムフォーマットの概要

No	項目	内容
フォーマット (1)	本インターンシップの 目的	インターンシップの意義や目的について理解する
フォーマット (2)	自社に対する理解	自社についての理解を深め、組織の目的・目標と自身の役割や組織において何をすべきかを再認識する
フォーマット (3)	仕事理解と自己理解	なぜ働くのか、やりがいは何か、中小企業の魅力とは何かを整理する事で、目指すべき自分像を描き、また学生に対して伝えるべきことを整理する
フォーマット (4)	実習計画	インターンシップ受け入れによる自社・部門・自身の目的や目標を整理し、学生の目的や目標とすり合わせしながら、実習目的や目標を設定した上で、それらに合わせた指導内容やスケジュールを作成する
フォーマット (5)	実習報告	実習の成果と課題、自身の学びを整理し、上司からのフィードバックをもらう

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## プログラムフォーマットの概要（一部抜粋）

### プログラム【2】 自社概要

記入例

目的：インターンシップ参加学生に自社について説明するために、自社に対する理解を深める。  
 目標：自社の概要をインターンシップ指導担当者が自分の言葉で説明できる。

社名	〇〇〇株式会社
業種	〇〇〇（日本標準産業分類業種コード〇〇〇〇〇） ※自社のIP等を見ながら記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
設立（創業）	昭和〇年〇月〇日設立（創業〇〇年〇月〇日） ※自社のIP等を見ながら記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
社員数	〇〇〇名（男性〇〇名 女性〇〇名 パート〇〇名） ※自社のIP等を見ながら記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
売上高	第〇期 20XX年度 〇〇円 ※自社のIP等を見ながら記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
業務内容	〇〇の製造・販売、〇〇全般の手続き代行 ※自社のIP等を見ながら記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
会社の歴史、社名の由来や創業者の想い	・〇〇年に・・・の輸入販売からスタート。〇〇年にこれまでのノウハウを生かし・・・の製造・販売を開始し、現在〇〇がメインの事業になっている。 ・社名の由来は・・・の世の中を実現したいという創業者の想いが反映されている。 ※自社のIP等を見ながら記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
経営理念（経営指針）	・私たちは・・・をします。 ※自社のIP等を見ながら記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
経営方針（中長期・単年度）	・〇〇年度 全社の経営方針・・・を目指そう。 ※年度始め経営指針発表会等の資料を参考に記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
経営戦略（中長期・単年度）	・〇〇年度 全社の経営方針・・・の実現 ※年度始め経営指針発表会等の資料を参考に記入し、分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。
受入部門方針	・〇〇年度 〇〇部門の方針・・・を目指そう。 ※分からない点は上司や先輩に聞き記入してください。

### プログラム【3】 仕事理解と自己理解

記入例

目的：インターンシップ参加学生に働くことや自分自身について説明するために、仕事理解と自己理解を深める。  
 目標：インターンシップ指導担当者が考える仕事のやりがいや働く意味を自分の言葉で説明できる。

あなたは会社（職務）でどのような役割を担っているか	今の職務は会社全体のなかでどのようなポジションで、どのような役割を担っているかを整理し記入してください。 （記入例） ・会社と社員、そして会社とお客様をつなぐ大切な役割。具体的には・・・。 ・〇〇を製造し、次の〇〇を作る上で重要なポジション。具体的には・・・。
あなたの会社（職務）の魅力とは何か	インターンシップ生に魅力を説明する際に、できるだけ「一言（ワンフレーズ）」で書えて、また理由を説明できる内容を考えて記入してください。（記入例） ・団結力があることです。なぜなら・・・。 ・皆で一着に頑張る中で達成感を得られる点です。具体的には・・・。
自分にとって働くとは何か（働く意味や理由）	自分自身にとって働くことは「お金を稼ぐこと」以外にどのような意味（理由）があるかを整理し記入してください。 （記入例） ・自分の技術を高め、良い商品を作ることです。なぜなら・・・。 ・お客様や社員同士など人のつながりを通して・・・を実現することです。理由は・・・。
働きがいを感じるのとはどんなとき？（やりがいを感じる時）	自分自身が仕事をしているなかで、やる気になる時（モチベーションが高まった時）を思い出しながら記入してください。 （記入例） ・機会やチャンスをいただけて実際に携わり、それが成功した時。また「ありがとう」「助かったよ！」などの言葉をいただいた時です。具体的には・・・。 ・これまでできなかった〇〇の作業が力や工夫によってうまくなるようになった時です。例えば・・・。
自分はどうな社会人を目指しているのか	自分自身がこれからのどのような社会人になって行きたいかをイメージし記入してください。 （記入例） ・きちんとしたビジネスマナーが身につく人になることです。なぜなら・・・。 ・〇〇部門の〇〇さんのようにリーダーシップを発揮できる人になりたいです。理由は・・・。
自社と地域はどうつながっているか	自社が地域とつながり取り組んでいる内容（ビジネスや地域貢献の活動）を記入してください。 （記入例） ・地域で・・・活動を行っています。特に・・・。 ・SDGの活動として・・・に取り組んでいます。具体的には・・・。

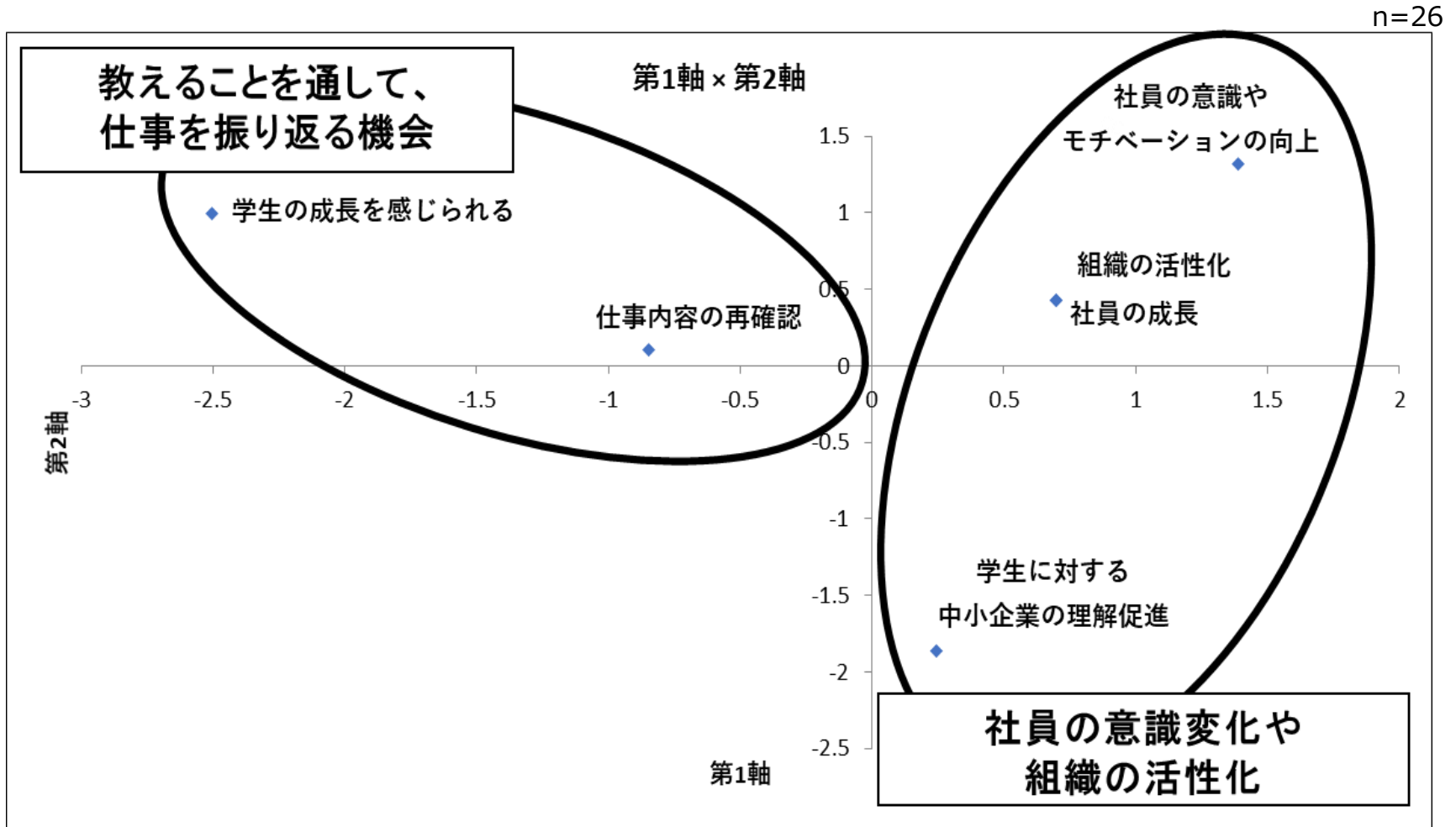
※活用方法や記入ポイントを動画（オンデマンド形式）で提供

## 受入企業に対する調査

- 1) 満足度が**92.3%**
- 2) 受入理由として最も多いのが、  
「**学生の自社や仕事理解促進**」  
「**社員教育の一環**」であった。
- 3) 社内（職場）の変化**50.0%**  
「**社員の意識変化**」  
「**新卒を受入れる土壌づくりにつながる変化**」があった。

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

## 受入満足の原因を分類（数量化Ⅲ類によるカテゴリースコアの布置）

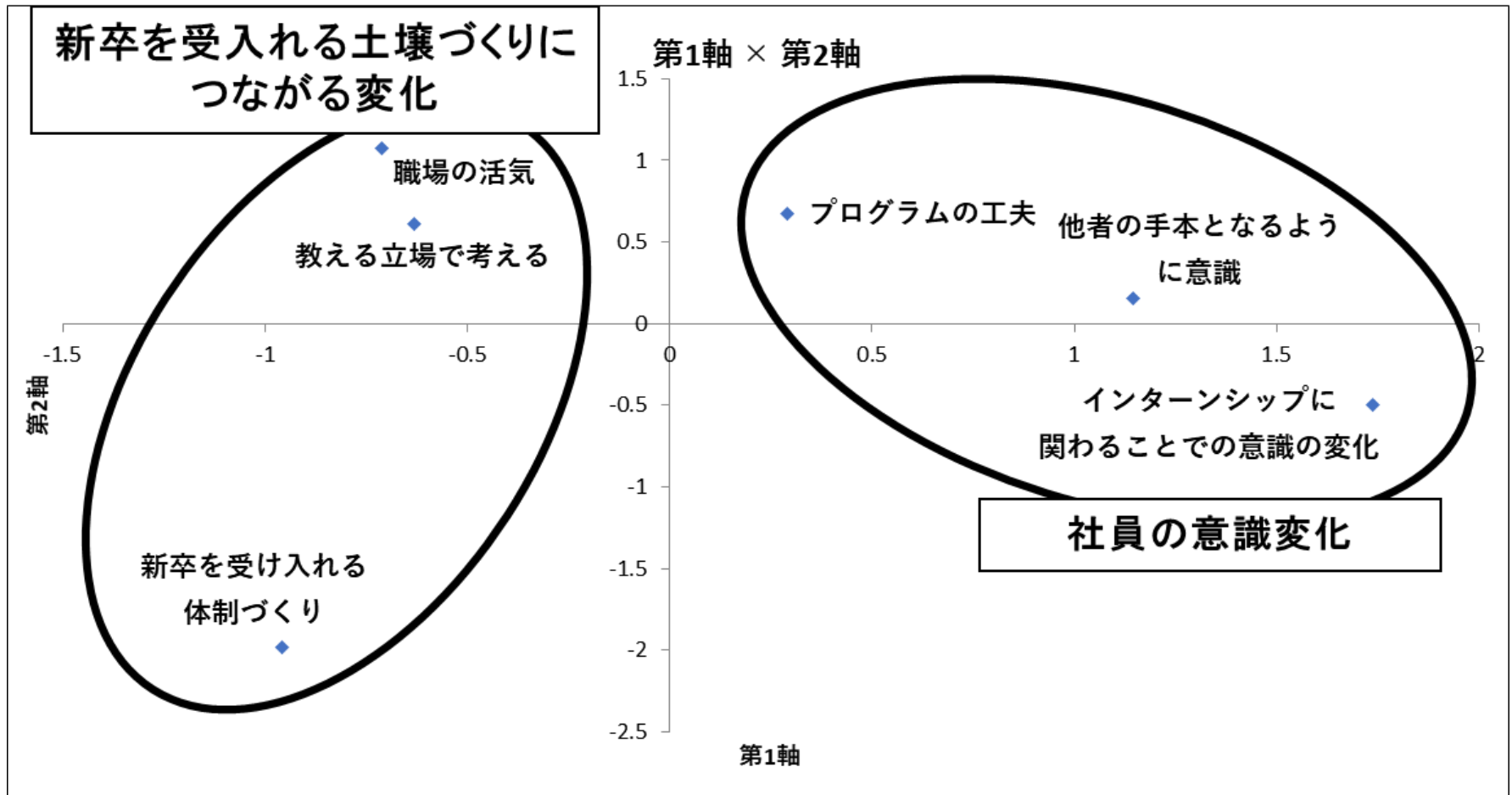


出所) 松坂暢浩・山本美奈子・小野浩幸・野田博行 (2019) 「中小企業団体と大学の産学連携インターンシップ」, 『産学連携学』(産学連携学会), (15), 2 (掲載決定)

# 山形大学と山形県中小企業家同友会の取組事例

受入れによる社内変化の理由を分類（数量化Ⅲ類によるカテゴリースコアの布置）

n=26



出所) 松坂暢浩・山本美奈子・小野浩幸・野田博行 (2019) 「中小企業団体と大学の産学連携インターンシップ」, 『産学連携学』(産学連携学会), (15), 2 (掲載決定)

# 共育型インターンシップ<sup>®</sup>担当社員の意識変容に対する経営者調査

n=35

項目	インターンシップ <sup>®</sup> 受入回数 2回以下 (N=14)		インターンシップ <sup>®</sup> 受入回数 3回以上 (N=21)					
	受入前 (期待)		受入後 (評価)		受入前 (期待)		受入後 (評価)	
	回答数※	割合 (%)	回答数※	割合 (%)	回答数※	割合 (%)	回答数※	割合 (%)
働くことの意味について考える機会になる	14	100.0	14	100.0	21	100.0	20	95.2
自社の魅力について考える機会になる	14	100.0	14	100.0	20	95.2	21	100.0
自社の経営指針（経営理念）を深く理解する機会になる	14	100.0	14	100.0	18	85.7	18	85.7
教える立場になることで、自分自身の仕事を見直す機会になる	14	100.0	12	85.7	21	100.0	20	95.2
主体的・積極的に働く意識が高まる機会になる	12	85.7	7	50.0	20	95.2	18	85.7

※「とても思う」と「やや思う」と回答した回答者の合計

# 今後の展望



# 今後の展望

---

- 学生の事前学習プログラムおよび受入企業のインターンシップ・プログラムの継続的な改善。
- 参加学生を卒業まで追跡調査し、量的・質的データを収集・分析。
- 受入企業の社員に対する調査を通じた、教育効果の検証。
- 他地域の同友会に共育型インターンシップを広げる取り組み。



# THANK YOU!

## ANY QUESTIONS, COMMENTS OR SUGGESTIONS?

---

松坂 暢浩 | Nobuhiro Matsuzaka, Ph.D.

[n-matsuzaka@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:n-matsuzaka@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

本研究はJSPS科研費 JP22K02677の助成を受けたものです。

